

会 議 録

1 会議名

令和3年度第2回有田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【諮問事項】

- ・上越市教育プラザ多目的ホールの廃止について（公開）

【協議事項】

- ・自主的審議事項について（公開）

3 開催日時

令和3年7月19日（月）午後6時30分から午後7時42分

4 開催場所

上越市カルチャーセンター ミーティングルーム

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 熊木敏夫（会長）、樺沢早苗（副会長）、市川 禅（副会長）、五十嵐里枝、池田憲雄、牛木幸一、内山幸一、栗間良子、佐藤正知、高橋邦夫、高橋秀樹、平井弘一郎、渡辺恵子（欠席者4名）
- ・教育総務課： 新部課長、岩野係長、大坪主事
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【熊木会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：渡辺委員、五十嵐委員に依頼

議題【諮問事項】上越市教育プラザ多目的ホールの廃止について、担当課へ説明を求める。

【教育総務課：新部課長】

- ・挨拶、職員紹介

上越市教育プラザは、旧直江津工業高校の校舎を活用して、平成19年4月に市教育委員会の事務所に加えて、生涯学習や文化交流の場として、市民の皆さんから広くご利用いただくための研修室や会議室などの機能を備えた貸館施設として開館した。

今回の諮問は、貸館施設のうち多目的ホールについて「若者の居場所Fit」を常設するため、多目的ホールとしての貸館機能を廃止したいと考えており、ご意見をいただくものである。

- ・資料No.1「上越市教育プラザ多目的ホールの廃止について（諮問）」に基づき説明

【熊木会長】

説明に対し、質疑を求める。

【高橋秀樹委員】

すでに「若者の居場所Fit」をやっていることは耳にしていたが所管の事務局はどこか。

【教育総務課：新部課長】

教育委員会の社会教育課である。

【高橋秀樹委員】

社会教育課ということは公民館と同じところか。反対しているわけではないが、中会議室でやっていたものを多目的ホールに移動すると、図面を見るとかなり広がるが、それだけ「若者の居場所Fit」の利用者数が多いのか。今、利用者数はどれぐらいか。

【教育総務課：新部課長】

社会教育課と公民館は同じ組織である。「若者の居場所Fit」の利用者数は、延べ人数で年間約60人程度になる。毎月の利用者数では、少ないときで2人程度、多いときで10人弱である。

【高橋秀樹委員】

今の人数から見て、この面積は妥当か検証されているのか。たまたま部屋が大きいが、

空いているからここでという話なのか。今の状況だと個人面談みたいなことになるので、人数によって区切ってやると思う。中会議室を使っていたのに対して多目的ホールを活用することの具体的な目的やスペースの根拠が見えないと、聞いていてもわかりづらい。

社会教育課でもいろいろな部署がある。社会教育課の中のどの部分なのか伺いたい。社会教育課の中にも公民館、施設管理といった担当があると思う。いわゆる引きこもりに関わる場所はどのようなところなのか。社会教育課といってもテリトリーが広くて大変だなという感じがするので、そこを教えていただきたい。

【教育総務課：新部課長】

1点目のスペースの件について、イメージとしてお伝えするが、多目的ホールの大きさは、ここの部屋の約半分程度とご認識をいただきたい。その中に、相談場所の間仕切りが必要であり、もともと相応の広さを求めていたが、その時点では適当なところがなく、事業を実施するにあたり苦肉の策として中会議室を利用していたことをご理解いただきたい。

2点目について、社会教育課での担当は、青少年健全育成センターである。

【牛木委員】

青少年健全育成センターと「若者の居場所F i t」の関連性はこういった形になっているのか。組織形態として、青少年健全育成センターにぶら下がって「若者の居場所F i t」があるのか。組織構図はどうなっているのかお聞きしたい。

「若者の居場所F i t」のパンフレットを見ると、若者の居場所が青少年健全育成センターになっている。参考資料3では、研修棟2階に「若者の居場所F i t」という組織がある。青少年健全育成センターの中に「若者の居場所F i t」という組織があるのか。全く別のものなのか。

【教育総務課：新部課長】

「若者の居場所F i t」は事業であり、青少年健全育成センターの中に事務所があるのではなく、事業そのものを中会議室でやっているという状況である。

【牛木委員】

青少年健全育成センターのスタッフが「若者の居場所F i t」をやっているのか。

【教育総務課：岩野係長】

青少年健全育成センターの事業の中に、若者育成支援事業というものがあって、その中の一つに位置付けられているのが「若者の居場所F i tの開設」である。その他に若

者の支援活動の広報として、チラシの配布、広報への掲載、小・中・高校との連携等々いろいろな事業を行っている中の一つという解釈である。ご質問いただいたスタッフの件だが、青少年健全育成センターのスタッフ3名が運営をしている。もう1点補足すると、参考資料2の研修棟1階の図面を見ていただくとわかるが、1階に青少年健全育成センターの事務室がある。普段はここで職員3名が執務していて、今はスタッフと利用者が2階の中会議室に移動して「若者の居場所Fit」として相談や活動を行っているため、利用者にも多少不便をおかけしている。

【佐藤委員】

青少年健全育成センターの職員が3名とのことだが、「若者の居場所Fit」を常設すると、いつでも若者が相談に伺ったりできるということか。そうすると今の職員が、相談を受けながら仕事をしていくと思うが、その辺の負担は大丈夫なのか。

【教育総務課：岩野係長】

開設して1年を経過したところで、利用者数は先ほどお伝えしたところだが、今の利用状況程度であれば、現在の体制でいけると聞いている。今後、利用者が増えてきた場合は、当然人員不足が懸念されるが、上越市には、こういった方々を支援するために、すこやかに暮らし包括支援センターと青少年健全育成センターが連携している。場合によっては、障害をお持ちのお子さんだと、地域包括支援センターとの連携もとっていると聞いているので、そちらとの連携の中で、しばらくは進めていきたい。今後、利用者が一気に倍になるようなことがあれば、社会教育課において、人員や業務分担の見直しを進めていくと思う。

【熊木会長】

基本的には「多目的ホールを廃止して良いか」が本筋なので、多目的ホールを廃止することによって、有田地区の住民にとって不利益かどうかメインの諮問だと思う。その点を踏まえて考えをまとめていただきたい。

【高橋邦夫委員】

貸館の多目的ホールの一般利用が、平成28年度で2日、平成29年度で10日しか利用されていないということなので、有田区として、これだけを見ていると不利益になることは全くないと感じるので、廃止をして新たな活用を探るのが有効ではないかと思う。

【熊木会長】

他に意見等を求めるがなし。

諮問第28号上越市教育プラザ多目的ホール廃止について、支障なしの方に挙手を求める。

(全員挙手)

諮問について支障なしと決する。

— 教育総務課 退室 —

次に、【協議事項】自主的審議事項について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

・別紙「有田区地域協議会 自主的審議事項について」に基づき説明

【熊木会長】

説明に対し、個々に意見等を求める。

【五十嵐委員】

カルチャーセンターに人が集まる仕組みづくりで、私もここに住んでいてカルチャーセンターの中身でなかなかわからない部分がある。仕事をしている中で、こういうところがあることがわかり、良さもだいぶわかってきた。この地域の中で、カルチャーセンターを知らない方も多々いると思う。それを、こういうところがあることを知っていただくのに私がここに来たいなと1番思うのが桜の時期である。とても綺麗で人を集めるために良いのではないかと思う。それをどう発信するかだが、サッカーや野球をするために子どもが来ているので、その親も結構来ている。その方たちから発信していただくと、この職員さんの負担は少なくなるのではないか。発信方法は、今の若い世代の人達は携帯でいろいろ写真を撮って情報を発信しているので、この施設を実際に使っている人から良さを発信してもらったらどうか。

また、最近、飲食の移動販売車が有田地区で見られるので、何かイベントを仕掛けて、イベントに合わせて来ていただくことはできないか。

【池田委員】

意見はあるが、話し合いたいテーマの焦点が決まっていない。大きなテーマなので焦点を絞りつつある段階である。

有田区は、上越市において、春日区と同様に今現在は人口が増えている。世帯数も増えてきている。しかし、近い将来に渡って増え続けるわけではなく、必ず減少していくと思う。それを踏まえて有田区の若者の定住を図るためにどうしたら良いのか。若者が

何を考えているのか、なぜ都会に流出していくのか、その辺に焦点を絞って取り組んでいく必要があるのではないかと考えている。

【牛木委員】

地域活動支援事業の活性化につながる組織づくりをどうするかが大きな課題だと思っている。今回、地域協議会に関する意識調査の集計表が出されたが、それを読むと委員自身が今やりたいことはあり、共通した悩みはあるが具体的にそれをビジョンとしての組立てができない。その点を踏まえて、委員の力量をつけさせるシステム、例えば、公民館活動で地域の運動等をやっているのは、有田地区は地元の人よりも地域外から来た人たちが有田地区を知りたいという思いの強い人もたくさんいる。前回「我が有田 希望満つ」という本を出された組織の人を交えて、あのような運動を1つの芽として育てていくとか、疑問を持った時にその人たちの芽をいかに育てていくかを探す。それを探すための力量をつけていくことだと思っている。そういう意味で市のひと・まち・しごと創生推進会議があるし、そういう方から有田地区は上越市の中でどのように見られているのか、どういう存在にあるかも踏まえて委員がある程度共通した認識を持つことが必要だと思っている。

平成27年に「地域協議会の一層の活性化に向けた検証結果報告書」が出された。それと比べた時に、委員の人たちがやりながら非常に悩んでいる。問題は漠然としているが、解決方法がなかなか見いだせない。そういう中で、先ほど提案した何か委員の力量を高めることから始めるべきではないか。

【内山委員】

カルチャーセンター自体は地域のよりどころとして、どうしても必要不可欠であろうと思っている。人をいかに集めるかという問題については、私自身、自分の町内ですら寄合いに若い人が来る機会が非常に少ない。個人主義な形が時代の流れ的にあるのではないか。親も子どもがある程度の年齢になっても、親が寄合いに出てきて、子どもを出そうとしないお宅が結構ある。できるだけ町内の輪を作り上げていきたい、何か催し物があればできるだけ参加したいと思っている。よりどころは絶対必要だと思うし、機会があれば町内の皆さんからも参加して欲しい。町内で回覧で回しても反応がないので、その辺の意識改革をあわせて取り組んでいきたいと思う。

【栗間委員】

他区では、地域活動支援事業の審査は点数制で厳しく行われている。有田区はこれで

よいのか。有田区は備品だけですんなり決まる。市で提示された予算が難なく通ってしまう。他区では、当日の審査は3時間もかかるそうだ。また、1,200円の報酬では割りが合わないので、値上げしていただけるように要求するという意見も出ている。私は6月19日に謙信交流館で行われた地域協議会の研修会に行った。そこでその話を市議と市職員からお聞きした。有田区では当てはまりません、と私は付け加えました。私は地域協議会委員になる前から、市民大学や地域協議会などに通っている。地域協議会委員になってから、ほとんど謙信交流館の研修会に参加して他区の皆さんの意見を聞いている。もし、この中で、1期目の協議会委員の中であまり意見も出さなくて、自分自身がどのように進んでいくかわからない場合は、ぜひ、謙信交流館の研修会に参加して、皆さんの意見を取り入れて、前に進んでいただきたいと思う。

【佐藤委員】

私自身も他の地区の公民館活動とか公民館の活用数について知らないのですが、カルチャーセンターの利用や、活用と比較して云々ということが全然言えないが、カルチャーセンターのことだけを考えたところ、先輩方がいろいろ苦勞されて利用しやすく、活用しやすい状況にしてくださっていると思っている。町内会の方々に、いろいろな健康づくり等で活動をされている。例えば、輪投げ大会をそれぞれの町内会で集まってきてみんなで行うとか、また、若い世代のお父さんお母さん方が一緒になって、ソフトバレーボールチームを作って親睦づくりをしている。また、有田区こどもフェスタでも子どもたちを喜ばせるためにいろいろな活動している。私自身も教諭でしたので、我々は直江津地区の退職組でカルチャーセンターを借りて、有田地区の子どもたちの夏休みの学習を一緒にするが、少しでもお手伝いできればということで、冷房を入れてくれたり、いろいろなカーテンを考えてくださったり、少しずつですが利用しやすくやったださっている。ありがたいと思っている。また、公民館独自で事業も計画していて、公民館だよりでお知らせしている。我々はそれを読みながら足を運んで、活動する中でさらにどうしたら良いか、前向きな意見が出ると思うので、実際にカルチャーセンターに通っていただくのが最初かなと思っている。素晴らしい図書の寄贈もやられているし、非常に良い伝統ができていますので大変感謝している。

【高橋邦夫委員】

話のテーマとして仕組みづくりとか組織づくりは、そこで終わってしまうという気がする。権限とか、実行力を伴うことは、地域協議会と違う気がする。実際に仕組みづく

りや、組織づくりをすると誰が中心になって、どのようにしてやるのかが非常に重要なことになってきて、それが動かないと問題の解決に繋がっていかないという気がする。それに対していろいろな方々が出てきて、どう思っているかという場所を作ることは地域協議会でできることではないか。

例えば、カルチャーセンターに人が集まる仕組みづくりと言った時に、町内会長が出てきても駄目で、実際に使っている方や使いたい方を集めて意見聴取、交流する場を作ることは地域協議会ができるのかなという気がする。そういうところから、緩やかな組織にしていくのか、もっとしっかりした組織にしていくのかいろいろなやり方があると思う。そういう部分までならば、自主的審議でやれるのかわからないが面倒だと思う。

次の地域活動支援事業についてもそうだが、そこに関わっているとお互いに交流とか発信しあうことはあまりできていないので、その部分を地域協議会でセッティングしても、その後どうするかは、残念ながらその人たちにお任せする以外できない。地域協議会委員として非常にやりにくい。ただ、単純に私自身がやっているいろいろな活動の公民館運営委員としての活用や町内会長協議会の仕事としてやるには、真っ先に問題解決のために動くことは可能だと思っている。そんな場面を作っていただけなのが一番大事なのかと思う。

【高橋秀樹委員】

地域協議会という名の元で何かをやろうとすると、なかなか難しくてちょっと引っかかるところがある。基本的に参画者という意識がないと、ただ出てきたテーマを評価するみたいな感覚では、地域協議会は成り立たないと考えている。

地元でよりどこをどうするか、もっと使いやすくするにはどうすればいいか。年寄りの方も含めて子どものいるお母さん方も含めてどうか。平日は皆さんお勤めになっているから利用できず、お年寄りの方しか来られない。例えば、環境を取り上げるのであれば人を集めて、きっかけづくりとして環境を良くしているようなことを考えることが必要ではないか。常に考えているのは、上越市の中で、これだけ公園のように広い敷地を持っているのは、3か所ぐらいしかない。大きく分けると高田城址公園、カルチャーセンター、頸城希望館しかない。その中で非常に活用度があるので、そこをどのように使い勝手をよくしてあげるか。

私はNPOを運営していて高齢者の体操をやっている。最近、子育てサロンも後援を始めた。二つあるが申し込みが多くて、お断りしている状態である。子育てで悩んでい

る方たちもおいでになる。ところが、来ようと思うとカルチャーセンターの中が畳の部屋が一つしか使えないとか、あるいは、下のフロアにエアコンもなくて暑くて子どもたちが困る。地域協議会が提案をしながら、それぞれの団体がそれぞれで市にお願いして設備投資、設備をお願いするというように、客観的に動いてくれているから、このところをどのようにやっていくかを協議していかないと、ただ、評価者ではなくて自分たちがいろんなものに参画していくことをしない限り、なかなか地域委員会の委員でやること自体が難しいという気がしている。

【平井委員】

この議題からちょっと違うことで考えていて、カルチャーセンターにどうしたら人が集まるという仕組みづくりとか全然頭になくて、今、各委員が話し合いたいテーマとして自分で勝手に考えていた。カルチャーセンターに人が集まる仕組みは、私の町内から遠いが、回覧が回ってくると良い活動をしていると思うので、ずっと続けていただきたいと思う。なるべく声をかけて参加させていただきたいと思っている。

地域活動支援事業についてはまだ考えていない。漠然と違うテーマで考えていたので、今回は、パスしたい。どうやって町内とか道路にごみのない社会にするかを考えていた。

【渡辺委員】

カルチャーセンターは建物が古いと思う。若い人たちが利用するには、もう少しおしゃれな建物だったら利用しやすいのではないかな。市の予算もあるだろうから、まずは利用者が使い勝手の良い環境を整えてあげることが大事なのではないかなと思う。ここも間仕切りで人数に合わせて使っているし、畳の部屋が1室しかないのであれば、畳が安く手に入るのであれば、こういうところを利用して、畳を敷けばいいのではないかなと思う。利用者の声を聞きながら環境を向上していけば喜んで使えるのではないかな。五十嵐委員が言われたように、スマホを通してこういうイベントをやっていると情報発信したら、もっと多くの若い人たちに利用してもらいやすい環境が整うと思う。若い人たちはみんなSNSで情報を共有している。皆さんほとんどスマホを持っているから、わくわくするようなカルチャーセンターの情報配信をしていったら、もっと活性化に繋がるのではないかなと思った。

【市川副会長】

昨年の地域協議会で話し合いたいテーマとしてカルチャーセンターに人が集まる仕組みづくりということで挙がっていたということで、何か大会とか催しがあること以外だ

とゴミ捨てぐらいしか、来ない場所なのだなといつも感じている。人が集まるということであれば、上越にこういう公園がそろっている場所が3つしかないというお話だったが、高田のオーレンプラザだとコーヒーが飲めるスペースがあって、コーヒーを飲みに行こうということで人を集める。イベントごとではなく、喫茶コーナーが常設してあれば、ここに来る目的にもなるのではないか。ゴミ捨てのついでにコーヒーを飲んで行くかということになったりもするし、喫茶コーナーがあれば、おのずと人が集まって、人と人の縁が生まれるのではないか。コミュニケーションが生まれて、新しい地域活動支援事業でこんなのがあったらいいよねという、地域活性化の話も生まれてくれるのではないかと思った。

夏だけ子どもたちの勉強をみるというお話があったが、それに関連するかどうかかわからないが、直江津学びの交流館に夕方行くとすごく子供たちが勉強している。夜も、電車の待ち合わせの関係もあって遅くまで勉強していることがある。ここも、やはり自習も良いが、塾に行っている子ばかりでもないと思うので、常設がいいのか、土日だけとかがいいのかかわからないし、相談にのれるOBの方の協力等も必要になると思うが、勉強を教えてもらうというようなスペースがあると、若い世代の交流も生まれてくるのではないかと感じた。

【樺沢副会長】

活性化に繋がる組織づくりということで考えてきた。町内だが、男性は結構町内の活動に出てくるが、女性がなかなか出てこないということで、5年程前に班の人だけに声をかけて女子会を作った。1年に4回ぐらいお茶飲みや運動をしようとか、今回はこれを作ったりしようかということでやり始めたが、やはり少しずつ人数が減ってきて先細りになっている。ちゃんとした組織がないと、自然と先細りになって終わってしまうのではないのかと考える。組織づくりは、ある程度のものがないとだんだん小さくなって、終わってしまうのは悲しい。他の小さいグループに所属はしているが、その中で何かしようとしてもなかなかできない。2、3グループが集まって人数が多くなれば意見も出しやすくなるし、少しは活性化になるのではないか。

【熊木会長】

皆さんの意見を一通りお聞きした。欠席者に関しては、何か届いているか。

【小川係長】

荻原委員と山崎委員から意見を預かっているので代読させていただく。

荻原委員からは、話し合いたいテーマが、カルチャーセンターに人が集まる仕組みづくり。内容は、カルチャーセンターの利用は近隣町内の居住者となる傾向があり、特に高齢者、児童には交通手段などに問題があると思われる。このようなことから、継続的な活動ではないが、子どもたちが喜ぶような特殊なイベントを開催してはどうか。例として地域活動支援事業に該当するか不明であるが、上越警察署、上越消防局の協力を得て、防犯、防災関連の講話等を含めた特殊車両の展示をしてはどうか。また、以前に、福田地内にある旧三菱化成の開催と思われるが、化成グラウンド内での低空の花火（スターメインのみ打ち上げ時間10分程度）が非常に好評であり、多数の方が見に来ていた記憶がある。当地区においても、スポーツ広場、またはサッカー場を利用し有田区独自の納涼大会の開催はどうか。開催においては、費用の支出、許可申請、駐車場などのいろいろな課題はあるが、将来的に企業からの協賛を得られれば可能ではないかとの意見である。

山崎委員からは、話し合いたいテーマが、カルチャーセンターの利用について。内容は、近隣の町内会は利用するには問題ないが、小猿屋地区、有田小学校区の高齢者には、交通手段がなくて遠い。有田区の子どもたちは親の付き添いが必要。有田地区には、旧こどもの家、現在の町内会館が3か所ある。その会場等で防犯、防災等の講話を実施して欲しいとの意見である。

【熊木会長】

今日の話合いは、皆さんの意見を1人ずつ聞くことがメインとし、本格的な自主的審議事項を1つ決めて、年間を通して審議していくことが、今のところ結論としては、大筋では出ていないので、意見をまとめた上で、今一度、集まっていただいて、多岐に渡って意見が出ているので、その一つ一つお答えすることは難しい部分もあるが、自主的審議事項をどうするか次回まとめたいと思う。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

直近で協議を行わなくてはならない諮問等の案件は入っていない。議題等が決まりましたら、会長と相談してご案内したい。

【熊木会長】

他に意見等を求める。

【牛木委員】

開催時期だが、緊急の場合はやむを得ないが、できれば1か月前に日程を決めていた
だきたい。

【熊木会長】

基本的に開催日の1か月前に周知するというのでよいか。

【高橋秀樹委員】

高橋邦夫委員と公民館の運営をやっているので宣伝させていただく。先ほど佐藤委員
からお話があったが、今月、小学生の勉強をみる会がここで始まる。先ほどの市川委員
のお話のとおり、最近子供たちが10～20名ぐらい来て勉強している。先輩から見
てもらったりしている。それで、3年越しで社会教育課からカーテンをいれてもらった。
また、エアコンを今月末に1階に入れてもらうことになった。地域活動支援事業で、体
温計を入れてもらった。カルチャーセンターの雨漏りは、天井を全部オーバーホールし
ていただいた。窓に吹き込むところも全部コーキングしていただいて、使い勝手が徐々
に良くなっているが、回覧を回しても、若い人を見ないうちに年寄りが回してしまう
ので、今回、子どもの件でも、こんなの初めて聞いたとか、高齢者のサロンの件も年寄
りが見ないうちに回して、何やっているかわからない人がいっぱいいらっしゃる。例え
ば、カルチャーセンターに来れば催し物がわかるとか、なにか仕掛けていかなくは駄
目かと思う。今の実態としては、かなり利用率も高くて、或いはあちこち修理をしてい
ただいているということで、非常に使い勝手の良いカルチャーセンターになりつつある。
交通安全協会のほうで、そこに止まれの信号とか、看板とか、この中で交通事故がある
と困るということで、例えば、町内会長協議会で仕掛ける。地域でできることと、市の
ほうに依頼することということで、そういう仕分けをしながら、ここはやっている。

夕方になると、ここで待ち合わせて犬の散歩をする人が多数いる。先ほどの話で地域
協議会の中で何かを決めるのはなかなか難しい。このカルチャーセンターをどうやって
いくか体制を何か作らないと一つの団体だけでやっておられる。それをどういうふうな
仕掛けをしていこうかということの審議はやっぱり地域協議会でやっていかないといけ
ない。そうしていかないとこういうのをやってもらいたいという意見だけで、なかなか
ここが活性化しない。

【栗間委員】

カルチャーセンターの周りだが、夕方になると暗くないか。子どもたちは夕方大丈夫
か。電気で明るくすることはできないのか。

【高橋秀樹委員】

夕方の何時以降は子供だけで出かけてはいけないといった学校のルールがある。ここへ来る場合は親が送迎する。ただ、街灯の配置については、今本体が腐ってきているということで、LEDに付け替えるだとか、それでは明かりが足りない場合は、ちょっと局所的なものをつけようという確認をしてもらっている。確かに言われる通り、暗いと言えば暗い。

【小川係長】

今日の皆さんからのご意見、発言を、事務局でまとめさせていただきたいと思う。今日発言する準備として紙にまとめたものをお持ちの委員さんがいらっしゃれば、差し支えなければ、お帰りの際に、事務局に提出いただきたい。

【熊木会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。